

## 「新事業の方向性」

### New Business Direction



ライフソリューション事業本部 本部長  
総合戦略本部 新価値創造部 部長  
植村 隆志  
Takashi Uemura

皆さん、こんにちは！ライフソリューション事業本部の植村です。

豊田合成は今年、創立 75 周年を迎え、2023 年度には自動車部品事業を中心に売上 1 兆円を超える企業となることができました。これは社員一人ひとりの挑戦の成果であり、深く感謝申し上げます。これからもステークホルダーの皆様のご期待に応えるべく、更なる成長を遂げていく所存です。しかしながら、私たちを取り巻く環境は急速に変化しています。「VUCA」という言葉が示すように、現代の世界は複雑で予測不能な変動が続いており、この変化をチャンスと捉えることが、私たちの未来を切り拓く鍵となります。環境変化は新たな社会課題を生み出し、迅速に対応することで、新しい価値を創造する機会が生まれるのです。

豊田合成が新事業に取り組む意義と目的は、経済価値と社会価値の両立にあります。これからの時代に求められるのは、既存事業の売上・利益追求（経済価値）だけでなく、持続可能な社会の発展に寄与する事業を通じて社会的課題を解決（社会価値）することです。このような取り組みは、企業のブランド価値を高め、長期的な成長を支える重要な要素となります。

皆さんもご存知のように、1995 年に量産化に成功した青色 LED の新規事業化は、私たちの技術力と新規開拓の風土を証明した大きな成功事例と考えています。私は皆さんとともに「次の幹となる事業」を創り上げたいと強く願っています。

その実現の第一歩として、2022 年 1 月に新価値創造部と新価値開発部を創設しました。狙うべき事業領域を「重点 5 分野（エネルギー、カーボンニュートラル、ヘルスケア、モビリティ、スマートホーム）」と定め、更に、事業化の確度をあげるために「新価値創造プロセス」を策定し、運用を開始しました。しかしながら、現実には順調に進んでいるわけではなく、試行錯誤の途上で 0 から 1 を生み出す難しさに直面していますが、CVC（コーポレートベンチャーキャピタル）活動等を通じて出会った仲間や社内外の専門家のお知恵をお借りすることでいくつかの社会課題解決テーマの出口が見えてきました。

新価値が求められているのは、「100 年に 1 度の大変革期」とも言われる自動車業界においても同じです。全社員が一丸となり、社会課題の解決に取り組み、持続可能な未来を切り開く企業として、新しい成功事例を数多く創り上げていきたいと考えております。

今回は特別寄稿として、新規事業の創出、DX、ダイバーシティ推進等の企業支援・人材育成に携わっておられ、社外取締役としてご指導いただいている栗生万琴様から、「新価値創造とアントレプレナーシップ」についてのご寄稿をいただきました。豊田合成に対する期待や提案も含まれていますので、ぜひ熟読いただき、今後の取り組みに生かしていただければ幸いです。